

『文芸俱樂部』 小説総目録 その八 (明治43年〜大正元年)

山根賢吉編

第十六卷第一号 (明治43年1月1日発行)

逸話	小山内 薫	1	14
かくし坊	宅 軒	15	45
五千坪	新田 静 湾	46	85
狐島の兄弟	松居 松葉 沢	86	149

(注)「かくし坊」の作者名は、内題では「三宅青軒」。「狐島の兄弟」は脚本で、翻案であるが原作は未詳。活社会に、椋蓮花の「犬商売」、青い人の「四十年前の飛行機」、長広舌に、北馬浪人「雪の満洲生活」がある。

題名と筆者名のみを示す。

実説	お 軽	神田 松 鯉
二段	目	柳家 小 さん
腹切	魚	錦城 斎 典 山
宇都宮重兵衛		桃川 燕 林
四段	目	三遊 亭 円 喬
小山田庄左衛門		一龍 齋 貞 山
森寺半左衛門		西尾 麟 慶
五段	目	橘家 円 蔵
寺井 玄 溪		真龍 齋 貞 水
高田軍兵衛		桃川 如 燕
七段	目	柳亭 燕 枝

第十六卷第二号 定期増刊 藤野義士外伝 (明治43年1月15日発行)

村松三太夫 放牛舎桃林
 片山万藏 清草舎英昌
 堀部妙海尼 猫遊軒伯知
 九段目 三遊亭円右
 関根弥次郎 宝井琴窓
 (注)「腹切魚」の内題には、「水沼久太夫」の角書がある。

第十六巻第三号(明治43年2月1日発行)

巻	田口掬汀	1	46
ラザラス	河野桐谷訳	47	68
第三篇	岩田烏山	69	95
果立ち	神山きと子	96	137
花祭日	田村松魚	138	175
ドの字	伊豆紫葉	176	189

(注)「橋」は、内題では「橋」。ラザラスの内題の作者名は「アンドレーフ作」。河野桐谷訳。〈活社会〉に、胡蝶園の「寒中の無料宿泊所」、高橋迎月の「東京市中の塵芥」、〈長広舌〉に、六浦生の「漁場生活」がある。

第十六巻第四号(明治43年3月1日発行)

紅	雀	嬰庭蜜村	1	42
へそくり	山田美妙	43	101	
太平楽	海賀変哲	102	164	
智慧鏡	山田芝麴園	165	184	
身替り座禅	岡村柿紅	185	199	

(注)〈活社会〉に、清秋庵の「牛乳配達」、SH生の「看護婦の桂庵」、唐沢紅雪の「鉄道機関手」がある。

第十六巻第五号(明治43年4月1日発行)

痕	山崎紫紅	1	65
奉公人	小山集川	66	107
役者ぎらひ	松居松葉	108	163

(注)「役者ぎらひ」冒頭の「小引」に「此喜劇の原名は「David Garrick」として、英国に於ける近代喜劇作者の元祖ともいふべきT. W. Robertsonが作者なり。もとはDe. Melvilleが「Sullivan」といふより翻案したるなりとぞ」とある。

〈活社会〉に、秀峰子の「魚河岸の隠れたる職業」、胡蝶園の「よし原の夜の物売り」、〈忙中閑〉に、美妙の「一滴露」がある。

第十六卷第六号 定期増刊
 藤田清稀揃 (明治43年4月15日発行)

題名と筆者名のみを示す。

お見立	三遊亭遊三
蘇生の三蔵	西尾麟慶
間違の婚礼	神田伯山
薬違ひ	柳亭燕枝
正直車夫	田辺南龍
酒修行	一龍齋貞山
夢悟空	橘家円蔵
孫生	一立齋文車
後生	柳家小さん
織田大炊	錦城斎典山
盃の殿様	三遊亭円喬
雪の夜譚	猫遊亭伯知
魂の入替	三遊亭円右
東の茶釜	泰々斎桃葉
万金丹	蝶花楼馬楽
黒旋風季遠	神田松鯉

(注)「雑録」に、剣花坊の「古川柳と遊里」がある。

第十六卷第七号 (明治43年5月1日発行)

ではどんな物?

兼子夫人 中村春雨

暗 長谷川時雨

二つの悲劇 広津和郎

刺巧すぎる人 金子紫草

(注)「兼子夫人」は脚本で、内題の作者名には「中村春雨」

雨沢」とあり、翻案と考えられる。「暗」の内題の作者名

は「しぐれ女史」、また「二つの悲劇」は「チエーホフ作、

「刺巧みすぎる人」は、「原作者ツルゲネフ」と、それぞれ

内題には記されている。なお、「活社会」に、卯木庵の

「ラムネの記」、〈長広舌〉に、岡本霞城の「大彗星」があ

る。

第十六卷第八号 (明治43年6月1日発行)

火照 広津柳浪 1 170

自殺 山田旭南 71 135

浜の女 薄田新雲 136 153

死物語 飯田旗軒 154 197

(注)「死物語」は、内題に「La Mort d'Olivier Beaulieu」

と付記している。《活社会》に、松の舎の「吉原の露店」、
 しょうほうの「活動写真の弁士」、竹の島人の「緑日の植木
 屋」があり、《忙中閑》に、美妙の「一滴露(中)」、鳥山
 人の「恩人乙羽氏」、エス生の「炭坑生活」があり、《落
 語》に、朝寝坊むらくの「もぐらもち」がある。

第十六卷第九号(明治43年7月1日発行)

母	佐藤紅緑	1	61
孤	泉斜汀	62	100
森の火	勝間舟人	101	128
叔母さん	福田琴月	129	177

(注)「森の火」の内題の作者名は「マキシム・ゴルギエ作」
 勝間舟人訳とある。

第十六卷第十号 定期増刊 鷗談落語 情話くらべ(明治43年
 7月15日発行)

題名と筆者名のみを示す。

おとわ丹七	錦城斎典山
搦屋無間	三遊亭円喬
奥梅川忠兵衛	清草舎英昌

第十六卷第十一号(明治43年8月1日発行)

有松家美代吉	三遊亭小円朝
北寄間	西尾麟慶
大阪屋花鳥	一龍斎貞山
立波	柳家小さん
返咲浪華梅	大島伯鶴
宮戸川	三遊亭円右
扇屋小町	神田伯山
傾城瀬川	春風亭柳枝
夜嵐お組	真龍斎貞水
明朝鳥	橘家円蔵
新朝顔	猫遊軒伯知

(注)《雑録》に、坪谷水哉の「流の莢面」、清秋庵の「浅
 草仲見世」がある。

うづしほ	森 鷗外	1	32
新一つ家	宮崎 三味	33	91
養子	西村 醉夢	92	146

(注)「うづしほ」の内題の作者名は「エドガア・アルラン・ボオ作」
 四外口訳となつてゐる。《活社会》に、高橋迎月の「夏の撒水夫」、

井華生の「東京の井戸」があり、〈長広舌〉に、清秋庵の「名妓の行方」がある。

第十六卷第十二号 (明治43年9月1日発行)

油 蟬 嬰庭 蜜村 1 1/35
 紅 粉 櫻 前田 曙山 36 1/88
 劇喜 子 備 大尉 田口 掬汀 89 1/124
 (注) 〈新講談〉に、西尾麟慶の「鼠小僧」があり、〈活社会〉に、藪野棕鳥の「売薬行商オ一二」、迎月子「裏面から東京の人力車」があり、〈長広舌〉に、清秋庵の「名妓の行方」があり、〈忙中閑〉に、荷葉の「洪水の浜町」、児玉花外の「夏の浅草」、三春生の「高利貸の手代」がある。

第十六卷第十三号 (明治43年10月1日発行)

霧 積 小山内 薫 1 1/47
 性 癖 武田 桜桃 48 1/101
 浜田の日記 三津木 春影 102 1/149
 劇喜 二 夫 婦 岡 鬼太郎 150 1/166
 (注) 〈新講談〉に、一龍斎貞山の「阿漕物語」があり、〈長広舌〉に、桂水子の「朝鮮通」、松田竹嶼の「朝鮮の

風俗」、漢楚雲の「朝鮮の妓生」がある。

第十六卷第十四号 定期増刊 続々怪談揃 (明治43年10月15日発行)

題名と筆者名のみを示す。
 四谷 怪談 皿 重 助 殺 泰々斎 桃葉
 金 八 猫 屋 春風亭 柳枝
 小夜衣 双紙 錦城斎 典山
 竈の 幽 霊 柳亭 燕枝
 島 原 奇 聞 一立斎 文車
 幽 霊 額 一龍斎 貞山
 累ヶ淵 (上) 三遊亭 円右
 累ヶ淵 (下) 三遊亭 円喬
 化物 屋敷 神田 伯山
 太秦寺の 燈籠 猫遊軒 伯知
 貸家 探し 柳家 小さん
 根津 宇右衛門 真龍斎 貞水
 小堀の 水菫 神田 松鯉

第十六卷第十五号 (明治43年11月1日発行)

房	子	広津柳浪	1	1	60
奇	抜	病	正岡秋子	61	84
染	小	袖	山田美妙	85	138
エル	バ	の波	栗島狭衣	139	163

(注)「エルバの波」の内題の作者名は、「細川風谷原作 栗島狭衣脚色」となっている。〈新譚談〉に、細川風谷の「奴内蔵様」があり、〈長広舌〉に、清秋庵の「半玉氣焰談」があり、〈忙中閑〉に、水蔭の「紅葉の脚本」がある。

第十六卷第十六号 (明治43年12月1日発行)

前	へ	生田泰山	1	54	
夢	の	一生	小山集川	55	83
劇	や	きもち	田村俊子	84	113

(注)〈新譚談〉に、神田松鯉の「二人長兵衛」があり、〈活社会〉に、長谷川天溪の「ピオテイリー見物」、せうろの「師走の質屋」があり、〈長広舌〉に、清秋庵の「年の市の今昔」があり、〈忙中閑〉に、泉鏡花の「麦搗」、烏生の「浅草印象記」がある。

第十七卷第一号 (明治44年1月1日発行)

親	心	正宗白鳥	1	24	
姉	妹	神山きと子	25	61	
史外	太郎	定綱	山田美妙	62	101
修	善	寺物語	岡本綺堂	102	122
劇	鼻		高須梅溪	123	141

(注)〈新譚談〉に、宝井馬琴の「夜討曾我」があり、〈活社会〉に、雲泥子の「貧の正月」、寸八坊の「浅草年中行事」があり、〈忙中閑〉に、櫻庭寛村の「東京人の東京見物」がある。

第十七卷第二号 定期増刊 落語譚談 娘揃ひ (明治44年1月15日発行)

評	判	蛇	娘	神田伯山
身	代	り	杵	橘家円藏
白	子	屋	おくま	葵々斎桃葉
人	来	鳥	お歌	三遊亭円馬
お	花	栄	三郎	一龍斎貞山
雪	と		ん	三遊亭円右

題名と筆者名のみを示す。

実説 鏡山 邑井貞吉
 江戸 娘 三遊亭円喬
 老女 おりえ 西尾麟慶
 妾 の 馬 柳家小さん
 椎 の 木 娘 真龍斎貞水
 四ツ目 小町 三遊亭小円朝
 橋羽屋 おみの 錦城斎貞山
 (注)《雑録》に、清秋庵の「古今評判娘」、卯木庵の「新
 濁芸者」がある。

第十七卷第三号 (明治44年2月1日発行)

暗 い 町 徳田秋声 1 15
 許 嫁 山田旭南 16 46
 文明の結果 真山青果 47 120
 (注)「文明の結果」は脚本で、内題の作者名は「トルストイ作
 とある。《新講談》に、錦城斎貞山の「鬼薊梅吉」があり、
 《長広舌》に、みはるの「木遣唄」、小畫伯の「模型モデルに立
 つ人」がある。

第十七卷第四号 (明治44年3月1日発行)

恐ろしき物語 佐藤紅緑 1 59
 椿 姫 田口掬汀 60 117
 新 婦 朝者 中村吉蔵 118 151
 (注)「椿姫」は脚本で、内題の下に「La Dame aux
 Camellias」とあり、翻案である。《新講談》に、泰々斎
 桃葉の「鬼坊主清吉」があり、《活社会》に、迎月子の
 「活動写真のフ井ルム」、石橋潜史の「おそるべき新色魔」
 があり、《長広舌》に、真山青果の「雲助の話」がある。

第十七卷第五号 (明治44年4月1日発行)

備 前 岡 山 江見水蔭 1 71
 死 後 田村松魚 72 113
 新 嘘 中内蝶二 114 149
 (注)《新講談》に、猫遊軒伯知の「北海娘清玄」があり、
 《活社会》に、悟像園生の「按摩の今昔」があり、《長広
 舌》に、清秋庵の「浅草公園の写真師」があり、《忙中閑
 に、児玉花外の「西京の花」がある。

第十七卷第六号 定期増刊 勸善懲惡白浪集 (明治44年4月15日発行)

題名と筆者名のみを示す。

湖水の白浪 一龍斎貞山
 穴どろ 三遊亭円右
 新助市 泰々斎桃葉
 拾丸 柳亭燕枝
 鼓上槌時選 神田松鯉
 軒宅 柳亭左楽
 神道徳次 錦城斎貞山
 迷子札 土橋亭りう馬
 小猿七之助 神田伯山
 芥どろ 柳家小さん
 雲霧仁左衛門 西尾麟慶
 血脈 橋家円蔵
 木崎の久蔵 一立斎文車
 双蝶々 三遊亭円喬

(注)《雑録》に、近藤蕉雨の「向島と荒川」がある。

第十七巻第七号(明治44年5月1日発行)

源 馬場孤蝶 1 | 77
 侮 北島春石 78 | 102

尉 神 經 質 磔川魔王 103 | 133

(注)《新譚談》に、真龍斎貞水の「出世の茶碗」があり、
 《活社会》に、迎月子の「吉原の大火と消防隊」、樵水生
 の「東京の水道」、江沢春霞の「妓夫太郎修行」があり、
 《忙中閑》に、泉鏡花の「人参」がある。

第十七巻第八号(明治44年6月1日発行)

湯の宿 遅塚麗水 1 | 53
 古き血 生田 葵 54 | 97
 隅田川雨長吉舟 岡 鬼太郎 98 | 132

(注)「古き血」は内題「舊き血」とある。「隅田川雨長吉舟」は脚本。《新譚談》に、柴田蕉の「替の乗切」があり、
 《長広舌》に、清秋庵の「都下の女髮結」、石井研堂の
 「古本屋の昨今」があり、《活社会》に、丹後町人の「仮
 宅の今昔」がある。

第十七巻第九号(明治44年7月1日発行)

笹色紅 泉鏡花 1 | 96
 蜚 寝 黒田湖山 97 | 139
 所作 間 魔大王 岡村柿紅 140 | 151

怪傑林彌三郎 田辺南龍 154 184
 (注)「閻魔大王」は脚本。「怪傑林彌三郎」は新講談である。
 「活社会」に、春生の「温泉場行の酌婦」があり、
 「中関」に、児玉花外の「夏の隅田川」がある。

第十七卷第十号 定期増刊 講談滑稽旅の友 (明治44年7月15日発行)

題名と筆者名のみを示す。

大岡政談 瓢箪屋 神田伯山
 猫の茶碗 三遊亭円喬
 斬拾御免 揚名舎桃季
 夜一剱籠 三遊亭小四朝
 柳川白子の勘六 小金井蘆洲
 三方一両損 三升屋小勝
 槍の権三 大島伯鶴
 館林 橘家川蔵
 今王子道三雲助行列 秦々斎桃葉
 煙草好き 柳家小さん
 長兵衛江の島詣り 真龍斎貞水
 鼻がほしい 三遊亭円右

第十七卷第十一号 (明治44年8月1日発行)

後の宮本 一龍斎貞山
 火の用心 五明楼玉輔
 静機帯 猫遊軒伯知
 旅の家 三島霜川 1 158
 病める人 守田有秋 59 110
 血統 中村吉蔵 111 139
 生首の御意見 柴田南玉 140 167
 (注)「血統」は脚本。「生首の御意見」は新講談である。
 「演芸界」に、晩紅の「大魔術天勝娘」があり、
 「長広舌」に、みはるの「三助修行」がある。

第十七卷第十二号 (明治44年9月1日発行)

結婚前後 田口掬汀 1 73
 敵国の友情 新田静湾 74 111
 刺配所の正則 小田春宵 112 141
 本町小町 邑井貞吉 142 175
 (注)「本町小町」は新講談。「活社会」に、四六郎の「飛行器模型製作販売業」、
 椋蓮花の「ぼんき屋」があり、
 「長

「広舌」に、有疎山人の「お月見の今昔」があり、「花柳界」に、大學生の「色三味線」がある。

第十七卷第十三号 (明治44年10月1日発行)

水	郷	の	花	宮崎	三味	1	1	56
犬				柴田	流星	57	1	106
血				君	竹水	107	1	154
お				岡本	綺堂	155	1	170
大	福	長	者	放牛舎	桃林	171	1	195

(注)「お七」は脚本。「大福長者」は「新譚談」である。
 〈活社会〉に、迎月子の「移転会社」、白水楼の「パン屋の職人」があり、〈長広舌〉に、覆面郎の「娼妓の計算帳」、清秋庵の「東京市中の電燈裝飾」があり、〈花柳界〉に、雨六の「芸妓人名辞書」、大學生の「色三味線」がある。

第十七卷第十四号 定期増刊 古今妖婦伝 (明治44年10月15日発行)

題名と筆者名のみを示す。

體	骨	お	松	小金井	蘆洲
葉	人	形		三遊亭	円右

熊	坂	お	かね	秦々斎	桃葉
身	代	り	石	三遊亭	金馬
お	と	き	三次	錦城齋	典山
金	朱		蘭	桃川	若燕
散	切	お	瀧	朝寝坊	むらく
海	老	屋	梅吉	一龍齋	貞山
また	か	の	お	三遊亭	円喬
霞	の	お	千代	神田	伯山
お	娘	お	ふち	柳家	小さん
お	見	立		早川	貞水
踏			台	春風亭	柳枝
衣	屋	お	熊	猫遊軒	伯知
紙			入	橘家	円蔵

(注)「體骨お松」の内題は、「骸骨お松」とあり、「金朱蘭」の内題には、「北瀧」の角書がある。「一龍齋貞山」は内題の作者名では、「一龍齋貞山」である。「お見立」の内題は「御見立」、「猫遊軒伯知」は、内題の作者名では「猫遊軒伯痴」である。〈雑録〉に、思案外史の「婦大名(老)越後れは紅葉山人」、麥哲生の「落語の落」、清秋庵の「越後女」、加丸生の「堂摺連の今昔」、五稜軒管齋の「高橋お伝

の芝居」がある。

第十七卷第十五号(明治44年11月1日発行)

時代野	火	江見水蔭	1	31
贊		山岸荷葉	32	93
浮燈	台	高階柳蔭	94	115
坊主	主	田村西男	116	153
松平外記	記	桃川如燕	154	185

(注)「野火」は、もちろん脚本。「坊主」の内題には「花柳」の角書があり、「松平外記」は「新講談」である。
 「小説」の角書があり、「清秋庵の」「東京の天長節」、宇賀の浦のや
 「長広舌」に、清秋庵の「東京の天長節」、宇賀の浦のや
 の「浦塩の天長節」があり、「花柳界」に、魯洒奈仏の
 「当世客馬鹿」、傘雪山人の「千葉県の花柳界」がある。

第十七卷第十六号(明治44年12月1日発行)

瓜	び	き	泉	鏡	花	1	80
暗	い	世	正岡	秋子		81	115
埴		農	佐野	天声		116	128
浜		猫	青木	秀峯		129	153
片山騷動			一立齋	文車		154	193

(注)「片山騷動」は「新講談」で、内題には「お袖
 角書がある。〈長広舌〉に、俗仏庵の「牛鍋通」、天涯范々
 生の「共同長屋探見記」があり、〈演芸界〉に、廣阿弥の
 「川上記」、胡蝶園の「川上音二郎の追懐」、間太郎の「寂
 しき人々を觀て」があり、〈活社会〉に、迎月子の「高利
 貨物語」、烏天狗の「市常車掌と運転手」があり、〈忙中閑
 〉に、幸堂得知の「火の車」がある。

第十八卷第一号(明治45年1月1日発行)

樺太脱獄記	森	嶋	外	沢	1	64
町の娘	三	島	霜	川	65	84
八月の夜	広	津	和	郎	85	107
旅役者	高	橋	仁		108	132
出世の春駒	大	島	伯	鶴	133	158

(注)「出世の春駒」は「新講談」である。〈忙中閑〉に、
 嬰庭筑村翁談「江戸趣味復興の有難迷惑」があり、〈花柳
 界〉に、丹後町人の「新年花柳界の変遷」、銀兵衛の「祇
 園町の昨今」がある。

第十八卷第二号 定期増刊 講談女夫揃(明治45年1月15日発行)

行

題名と筆者名のみを示す。

女夫の仇討	一龍齋貞山
三夫婦	三遊亭円喬
桐ヶ谷奇聞	桃川如燕
柴木村甚助	早川貞水
御礼参り	柳亭燕枝
正直夫婦	錦城齋貞山
垂乳根	三遊亭円右
遊女の真	藜々斎桃葉
見合の替玉	五明楼玉輔
俄夫婦	田辺南龍
をかふい	三遊亭小円朝
稲毛屋おげん	神田伯山
野狐三次	小金井蘆洲
子別れ	柳家小さん
越後伝吉	神田松鯉
腕久末松山	岡村柿紅

(注)「正直夫婦」の内題には、「村井成」の角書がある。

「腕久末松山」は脚本。(雑録)に、似不似軒主人述「明

治百夫婦」、高砂生の「女義太夫の夫婦」がある。

第十八巻第三号(明治45年2月1日発行)

三島の会见	後藤宙外	1	56
睡蓮	生田蝶介	57	99
日の出	佐藤紅緑	100	129
群陽気な女房	松居松葉	130	156
亀屋忠兵衛	清草舎英昌	157	183

(注)「日の出」は脚本で、内題に「日の出(日本のノラ)」とある。「群陽気な女房」の内題の作者名は「英国沙翁作 日本松葉訳」とあり、最末尾に「こは沙翁が喜劇」The Merry Wives of Windsor」の一部を訳せるものなり。帝国劇場の女優劇に演ぜしめんため、原作にては男にてあるべきを三人まで女にかき換へたり」とある。「亀屋忠兵衛」は「新講談」。(長広舌)に、真山背果の「大阪の二週間」、信田葛葉の「洋妾物語」があり、(花柳界)に、近藤蕉雨の「東京花柳界の一月」、赤松孤村の「京都の町芸妓」があり、(活社会)に、晚夏生の「古畳洗滌業」、清秋庵の「足袋商の今昔」、黒部素人の「河豚料理」がある。

第十八巻第四号(明治45年3月1日発行)

重	荷	生田 葵	1	62
秘	密の扉	コナンドイル作 無名氏訳	63	104
争		中村吉蔵	105	140
扇	屋梅川	宝井琴窓	141	172

(注)「争」は脚本。「扇屋梅川」は、「新講談」である。

〈活社会〉に、紫瀾生の「伯林の活動写真」、カハ坊の「犬猫泥棒」、迎月子の「油断のならぬ運送屋」があり、〈長広舌〉に、石井研堂の「欠本商」、峽雨生の「東京の人夫」があり、〈花柳界〉に、銀兵衛の「此頃の先斗町」、古笠生の「黒瀧江齊々哈爾の花街永安里」があり、〈忙中閑〉に、泉鏡花の「唐模様」がある。

第十八巻第五号(明治45年4月1日発行)

谷	間	の宿	江見水蔭	1	74
病	馬	篇	山田旭南	75	114
南	と	北	田口掬汀	115	151
国	定	忠次	松林右円	152	183

(注)「南と北」は脚本。「国定忠次」は「新講談」である。〈演芸界〉に、生田葵の「市川左団次論」があり、〈活社

会〉に、椋蓮花の「扱め屋の人足」があり、〈長広舌〉に、蜘蛛園の「ビリケン福神」があり、〈花柳界〉に、孤村生の「京都の島原」、卯木庵の「新潟花柳界と新潟女」、近藤蕉雨の「観桜時の花柳界」があり、〈忙中閑〉に、清秋庵の筆記による「芸妓の劇評」がある。

第十八巻第六号 定期増刊 題名と筆者名のみを示す。
蘭語名妓揃 (明治45年4月15日発行)

屋花屋美の吉	錦城斎典山
有馬のおふち	春風亭柳枝
堀の小まん	猫遊軒伯知
後の船徳	三遊亭円喬
芸妓の仇討	早川貞水
辰巳のお仲	古今亭今輔
岸廼屋松子	邑井貞吉
たちきり	三遊亭円石
狭妓幾松	小金井盧洲
奴の松吉	神田伯山
小いな	柳家小さん

第十八巻第七号(明治45年5月1日発行)

橋本屋白糸 葵々斎桃葉
 けゝん茶屋 朝稔坊むらく
 写真のお若 桃川如燕
 忠孝相合傘 一龍斎貞山

(注)「屋花屋美の吉」は内題では「尾花屋美の吉」となっている。「忠孝相合傘」の内題には「^{三郎}」の角書がある。
 (雑録)に、変哲生の「統落語の落」、迎月生の「婦人の脱毛百万円」、清秋庵の「花柳張場格子」、大木生の「三浦三崎」がある。

奇 緑 嵯峨の屋主人 1 55
 悲 水鳥尺草 56 87
 拙者一代記 海賀変哲 88 128
 劇新 衣 中村春雨 129 153
 客俠 山内喜太郎 桃川若燕 154 185

(注)「山内喜太郎」は「新譚談」。「活社会」に、迎月子の「罪人と指紋法」、白雲閣主の「上海の金看板」があり、
 「長広舌」に、いの字の「花魁一人」があり、「花柳界」
 に、卯木庵の「日本海の遊女郷」、銀兵衛の「大阪の五花

街」があり、「忙中閑」に、後藤宙外の「伊豆の女と風景」がある。

第十八巻第八号(明治45年6月1日発行)

劇史 悪源太 宮崎三味 1 35
 天 幕 田村松魚 36 66
 賭 ケ 蛙 佐々木邦 67 77
 牛乳屋の妻 三津木春影 78 123
 大和三人男 神田伯山 124 149

(注)「悪源太」は「^劇」とある通り、脚本。「大和三人男」は「新譚談」である。「活社会」に、長谷川天溪の「倫敦の活動写真」、荻野椋鳥の「馬肉屋」、花露子の「東京の花売」があり、「長広舌」に、清秋庵の「蓄音器の全盛」があり、「演芸界」に、孔雀船の「須磨子論」があり、「花柳界」に、まんじの「^吉十五人男」、近藤蕉雨の「東京花柳界の今昔(一)」、黒顔子の「よしあし草」があり、「忙中閑」に、不崩畫史の「あさがほの趣味」、井上啞々の「山の手と下町」がある。

第十八巻第九号 博文館創業廿五周年記念増刊 撰録廿五名家

選(明治45年6月15日発行)

題名と筆者名のみを示す。

京 美 人	市 助 酒	浪人菅野弥一郎	お松 御 殿	逸 見 貞 歳	返 咲 老 木 花	徳 利 亀 屋	孝 子 万 兵 衛	洒 落 小 町	葦 原 檢 校	業 平 金 五 郎	転 <small>り</small> 失 <small>し</small> 気 <small>き</small>	殿 中 刃 傷	お か め 団 子	皆 川 伝 右 衛 門	恋 娘 昔 八 丈	臚 の 梅 若	佐 賀 の 夜 桜
猫遊軒伯知	柳家小さん	神田伯山	三遊亭小円朝	一龍斎貞山	早川貞水	談洲楼燕枝	錦城斎典山	春風亭柳枝	小金井蘆洲	桃川如燕	橘家円蔵	神田松鯉	三遊亭円右	一立斎文車	葵々斎桃葉	三遊亭円喬	清草舎英昌

七 度 狐 朝寝坊むらく
 原 田 甲 斐 細川風谷
 京 見 物 柳家小三治
 怪傑頭山満 伊藤痴遊
 針ヶ谷仇討 宝井馬琴
 凱 旋 柳亭左楽
 巖 島 合 戦 坂本富岳

(注)「京美人」の内題には「情新」の角書があり、「殿中刃傷」の内題には「佐野」の角書がある。《雑録》に、変哲生の「続々落語の落」、清秋庵の「花柳二十五年」、空板生の「廿五年前の講談界(講談界の今昔譚)」、生田蝶介の「廿五の美」、泉鏡花の「唐模様」、花咲爺の「交際秘術」、長谷川天溪の「雑記帳より」、幸堂得知の「万屋万兵衛」、赤面獣の「田舎牧師の生活」、田村松魚の「釣遊記」、思案外史の「本町の一と昔」がある。この号は六三九頁の大冊である。

第十八巻第十号(明治45年7月1日発行)

河 岸 の 灯	子 供	1
	広津和郎	55
	生田蝶介	106

最後の願 金子紫草 107-113
 狼子橋の仇討 藜々斎葉柳 151-174

(注)「子供」は、末尾に「(Monsieur Parent)」とある。

「最後の願」は脚本で、内題に「スーターマンの『LEBE DAS LEBEN』と付記。」「狼子橋の仇討」は「新講談」である。〈活社会〉に、岡本霞城の「米価と相場師」、迎月子の「貸金取立業」、白水楼の「夜店の古本屋」があり、〈演芸界〉に、二洲橋生の「逝ける天一の一生」、柿山伏の「女優劇初見参の記」があり、〈長広舌〉に覆面子の「魔窟の検校」があり、〈花柳界〉に近藤蕉雨の「東京花柳界の今昔(二)」があり、〈忙中閑〉に、山本柳葉の「湯上り」がある。

第十八巻第十一号(明治45年8月1日発行)

暗 転 寝 庭 萱 村 1-28
 或 る 群 生 田 葵 29-71
 劇 焰 の 流 れ 林 和 沢 72-152
 若 菜 家 お 駒 一 立 斎 文 車 153-181

(注)「或る群」は、内題では「或る群れ」とあり、「焰の流れ」は、内題に、「(ボール、エル井ウ)」と付記。「若菜

家お駒」は「新講談」である。〈活社会〉に覆面子の「内職募集の裏面」、白水楼の「絵葉書内輪話」があり、〈花柳界〉に春廻家の「朝鮮の花柳界」、烏奴生の「博多柳町」、福原雨六の「函館の芸妓」があり、〈長広舌〉に、清秋庵の「商品切手物語」、烏天狗の「近郊瀧めぐり」があり、〈忙中閑〉に、久保天随の「上追貝の奇勝」がある。

第十八巻第十二号(大正元年9月1日発行)

破 裂 前 沼 波 瓊 音 1-31
 男 と 女 と 高 崎 春 月 32-72
 玄 関 米 光 関 月 73-130
 あ き ら め 佐 藤 紅 緑 131-151
 新 釣 狐 岡 村 柿 紅 152-160
 小 金 井 小 次 郎 小 金 井 蘆 洲 161-186

(注)「あきらめ」「新釣狐」は脚本。「あきらめ」の内題には、「純日本劇」の角書がある。「小金井小次郎」は「新講談」である。〈長広舌〉に、迎月子の「御遺跡今戸御殿」、覆面子の「御大葬と法衣師」があり、〈演芸界〉に、たけしの「新内のこの頃」があり、〈活社会〉に、白水楼の「大喪中の魚河岸」、烏天狗の「欺罔の行商女」があり、〈花柳

界」に、近藤蕉雨の「東京花柳界の今昔(三)」があり、

「忙中閑」に、黒川寿雄の「白い髻」がある。「時報」の「聖帝崩御」に、「(七月)三十日午前零時四十三分を以て神去り玉へり」とある。

なお、本号巻頭の写真に「清楚」として、新橋新翁家富松の写真が見える。

第十八卷第十三号(大正元年10月1日発行)

劇史	命乞ひ	塚原波柿園	1	27
博士	の娘	三島霜川	28	82
うら	だな	君竹水	83	138
劇舞	胡蝶	栗島狭衣	139	151
日本	左衛門	田辺南龍	152	178

(注)「日本左衛門」は「新講談」。「長広舌」に、からす生の「闇に活きる男」、漁火生の「秋刀魚」があり、「演芸界」に、幸堂得知の「劇場盛衰記」があり、「活社会」に、迎月子の「タクシー自動車」があり、「花柳界」に近藤蕉雨の「東京花柳界の今昔(四)」があり、「忙中閑」に、柿山伏の「対大阪」がある。

第十八卷第十四号 定期増刊 講談夢揃ひ(大正元年10月15日発行)

題名と筆者名のみを示す。

犬伏の次郎吉	錦城斎典山
夢の遺言	三遊亭円喬
塚原ト伝	一龍斎貞山
茗荷屋	淡州楼燕枝
天一坊	神田松鯉
天狗山	朝寝坊むらく
吉備大臣	邑井貞吉
夢富限	五明楼玉輔
夢の仇討	神田伯山
大黒	三遊亭円右
昇天の龍	小金井蘆洲
占八百屋	柳家小さん
小紫廓の小唄	猫遊軒伯知
貸本屋の夢	入船亭船橋
市川才牛	早川貞水

(注)「犬伏の次郎吉」は、内題「犬伏の治郎吉」、「夢の仇討」は、内題には、「機隨院」の角書があり、「貸本屋の

夢」の内題の作者名は「入船亭扇橋」とある。〈雑録〉に、海賀変哲の「落語の落」がある。

第十八巻第十五号（大正元年11月1日発行）

結	末	小山内	蕉	1	91
枕		田村	西男	92	133
喜	たちばな	海賀	変哲	134	153
柴	田外記	細川	風谷	154	180

(注)「枕」は内題に「花柳小説」の角書がある。「柴田外記」は、「新講談」である。〈長広舌〉に、覆面子の「強盗巡查」があり、〈活社会〉に、椋蓮花の「牛屋の姐さん」、白水楼の「遊女と貸本」があり、〈花柳界〉に、近藤蕉雨の「東京花柳界の今昔(五)」があり、〈忙中閑〉に、ペエリク作「女占」、黒顔子の「新京極」、卯木庵の「和気律太郎」がある。「花魁の祖は尼僧」がある。

第十八巻第十六号（大正元年12月1日発行）

劇	小学	教員	巖谷	小波	1	60
三人	の	舞姫	本山	荻舟	61	89
大	和	屋	鈴木	秋風	90	128

伊賀の死諫問答 一龍斎貞山 129 161

(注)「死諫問答」は「新講談」。〈演芸界〉に、一自生の「驚異の花ヘツダ」、アンナ、パウロワ嬢口述「露国女優氣質」があり、〈長広舌〉に、藪野椋鳥の「専売局の女工」があり、〈花柳界〉に、黒顔子の「島原から祇園へ」、近藤蕉雨の「東京花柳界の今昔(六)」がある。

本目録の作成にあたっては、架蔵誌のほか、国立国会図書館、日本近代文学館所蔵誌によった。

本目録はすでに大正改元の時期に達し、「明治新聞雑誌文庫所蔵雑誌目次総覧」に「文芸倶楽部」も収録されることになったので、ここで連載を終る。

顧みれば、本目録(その一)を掲載したのは、阪倉篤義先生の古稀記念号であった。今、(その八)をもって終ろうとする時、垣田・鎌田両先生の古稀記念号となる。両先生のますますのご加餐をお願いしたい。